



## 新聞係とかべ新聞づくりの思い出

— かべ新聞から「わかやまデジタルかべ新聞パーク」へ —

和歌山県NIE推進協議会会長 和歌山大学教育学部教授 船越 勝

私が生まれ育ったのは、京都市内の西陣といわれる地域で、路地裏に入ると「からから」という織機の音が聞こえる、西陣織の織り屋さんがたくさんあるところだった。また、学問の神様と言われる菅原道真が祀られている北野天満宮もすぐ近くにあって、そんな地域のなかにある京都市立仁和寺小学校が私の母校である。そして、5年生と6年生の時は持ち上がりで、当時たぶん20代後半の青年教師だった堀友泰先生に担任をして頂いた。

先生は、陸上競技などスポーツが得意であるだけでなく、作文教育にも熱心に取り組んでおられた。(後に京都教育大学附属桃山小学校に転任して、国語科を専門にされるとともに、副校長も務められた。)私は堀先生の助言で西京極の陸上競技場で行われていた陸上教室に通うようになる。堀先生との対話を楽しみにして、日記も必ず毎日書いて先生に提出していた。また、運動会や修学旅行などの大きな行事があると、作文を書

いて、それが文集「馬の子」(文集のタイトルの由来は、先生が馬のように背が高いからとか、馬面だからとかいろいろ言われていたが、定かではない)も発行されていた。こうした日々の経験のなかで、私は書くことが好きになり、今日の仕事に直結している書く力を身に付けていったのは間違いない。

堀先生とのこうした関係のなかで、クラブ活動は当然陸上部に所属していたのであるが、学級係活動は新聞係をしていた。新聞係をするようになった経緯は、よく覚えていないが、先生に勧められたというより、自主性を尊重される堀先生のことだから、たぶん自分で立候補してなったんだと思う。学級文化活動としての学級新聞は、当時の学校の状況からすると、きちんと活字を組んで、印刷された「学校便り」を除くと、B4の大きさの紙に、ガリ切りをして、謄写版で印刷したものと、模造紙に直接書き込んだり、別の紙で作成して、それを貼ったりしたかべ新聞と大きく分けると2種類あったが、私たちの新

聞係が取り組んでいたのは、後者のかべ新聞だった。

新聞の内容も、一般的には教科の学習を元に、それをまとめたり、さらに調べ学習をした成果を書いたりするものと、学級の様々な活動やそのなかでの仲間との活躍、さらにはそれらに関わって図書館や新聞などで調べたことなどを取り上げて発信するものと大きくは2種類があったが、私たちの新聞係は後者であった。こうした活動はとても楽しく、私たちの爆発的なエネルギーを引き出して、時には模造紙を5枚くらいつないで作成したかべ新聞を廊下に掲示したので、他のクラスの子どもたちや先生方がたくさん見に来て下さったのがまたうれしく、堀先生の日記での「船越君たちのやる気はすごい!!」という言葉もあって、さらに新聞係の活動にのめり込むことになった。これらの活動のなかで、市民として求められるインタビューする力や調べる力・探究力を獲得していったのである。

こうして小学校時代に全力で作成したかべ新聞

は、残念ながら今日一つも残っていない。日記は私事性が高いため残っているが、みんなで創った公共的なものとしての新聞は、散逸してしまったのである。小学校などでの実践として紙媒体での新聞づくりは、今日でも取り替えようのない価値があると思うが、保存やより広い範囲で見てもうするためには、デジタル化が大きな力を発揮する。そうした趣旨から、和歌山NIEではこの度「わかやまデジタルかべ新聞パーク」という新しい取り組みを始めることになった。アナログとデジタルのそれぞれの良さをつなぎながら、和歌山の学校でできた様々な新聞がネット上で交流される広場ができることで、子どもたちの学びと成長がさらに促されていくことを心から願っている。



# ニュージャーザー日本人学校での NIE授業の取り組み

和歌山大学教育学部附属小学校 教諭 矢出 大介

GIGAスクール構想により、タブレットやPCなどの電子機器一人一台体制が実現されました。これにより、学校の教育環境は大きく変化していく可能性があります。(※変化していきけるかどうかは、教員の意識に左右されます。)

教員が知恵を絞って、より良い教育環境に変えていく必要があります。子ども一人ひとりが電子機器を持つことにより、情報を簡単に手に入れることができるようになります。それと同時に、それらの情報を取捨選択することが今まで以上に必要になってきました。また、どのようにして、情報を収集すべきなのかを考えることも大切になっていきます。情報収集の選択肢として、①SNS②人から直接聞く③新聞④ラジオ⑤テレビ

⑥オンラインプラットフォームなどがある。このように選択肢の中から、状況に合わせて情報収集する方法を選択できるような子どもを育成することが大切になると考えています。

このような状況を踏まえて、アメリカ・ニュージャーザー日本人小学校3年生において、どのようにして新聞を活用した学びを進めていくのかを考えました。

では、なぜ新聞を活用した授業を進めようと考えたのか。それは、インターネット検索をして調べ学習を進めることも大切だが、インターネット検索だけでなく、新聞を活用した学びも必要であり、子どもが日常生活において、自分だけで新聞を活用することが難しいと考えたから

です。新聞は、客観的事実を知ったり、世の中のことを広く知ったりすることが出来ます。また、調べ学習をしている時には、自分たちの考えと世の中の事実を比較して考えることができます。また、新聞を読むことで、プロの巧みな表現に出会うことも出来ます。つまり、学校で新聞を活用した学びを進めることで、このような価値を子どもが実感することで、自己の成長につなげていけると考えています。

ここで紙新聞とデジタル新聞の特徴を整理します。紙新聞  
○記者の経験を通じた幅広い内容を読むことができる。  
○子どもの興味・関心の幅を広げることができる。  
△探究的な学びにおいて、

すぐに自分のほしい情報を入力しにくい。  
デジタル新聞  
○ピンポイントで深掘りが可能な「検索」ができる。  
△総合的な学習などの探究的な学びをする上で有効な手立てになる。  
△興味・関心のある分野に偏りがでてしまう。  
△入手する情報が限定される。  
アメリカで日本の紙新聞を定期的に購読することは容易ではありません。その反面、一人一台が電子機器をもっていることで、デジタル新聞を購読することが容易であると判断しました。

そのため、今回デジタル新聞を活用して、デジタル新聞の記事を組み合わせて自分の読みたいデジタル新聞を作ることという実践を行いました。使ったのは朝日子どもデジタル新聞です。これは、すべてにルビがあるので、全員がスムーズに記事を読むことが出来ました。また、検索機能を活用することで、自分の興味がある記事が素早く読むことができ、その中から特に気になった記事を選んでいくことが

出来ました。デジタル新聞に触れる時間45分、記事を選んで自分の読みたい新聞を作るのに45分の授業を行いました。子どもたちは、意欲的に新聞の記事を集めていくことができていました。子どもたちは、以下の感想をもっていました。デジタル新聞を授業で初めて知りました。読みやすく、もっと読みたいと思えました。いろんなことが詳しく分かりました。今回の実践の成果として、自分の興味を大切にしたい。短時間で新聞を作成する経験ができたこと、デジタル新聞の価値を知ることができたことだと考えています。この経験を積み重ねることで、新聞の構成や表現に関心をもったり工夫をしたいと思ったりするようになってくると考えています。

児童生徒が授業で作成した、かべ新聞、学習新聞、調査研究ポスターなどを募集しています。授業で作成した児童生徒作品を、学年運営や学級経営の記録として、ウェブ上でいつでもどこでも鑑賞できるようにしてみませんか。「わかやまデジタルかべ新聞パーク」は、そのような「デジタル作品展示会」の会場をウェブ上で提供しています。興味のある教員の皆様は、このたよりに挟んでいるチラシの募集要項をご覧ください。たくさんの作品の応募をお待ちしています。



## 作品を募集しています!!

児童生徒が授業で作成した、かべ新聞、学習新聞、調査研究ポスターなどを募集しています。授業で作成した児童生徒作品を、学年運営や学級経営の記録として、ウェブ上でいつでもどこでも鑑賞できるようにしてみませんか。「わかやまデジタルかべ新聞パーク」は、そのような「デジタル作品展示会」の会場をウェブ上で提供しています。興味のある教員の皆様は、このたよりに挟んでいるチラシの募集要項をご覧ください。たくさんの作品の応募をお待ちしています。

[https://nie.kiiminpo.jp/wall\\_news\\_form/](https://nie.kiiminpo.jp/wall_news_form/)





# 総合的な探究の時間での NIEの取り組み



和歌山県立和歌山東高等学校 教頭 古谷 直輝

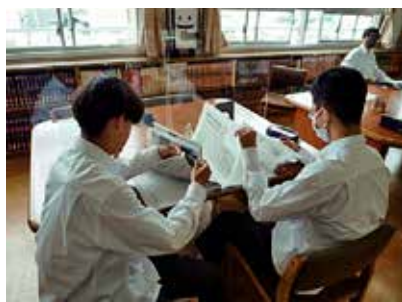
本校は令和3年度よりNIE指定校として認定され「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募を実施している。3年目にして、今年度、「学校奨励賞」をいただくことができた。生徒数は約380名、進路は就職5割・進学5割である。自宅学習が定着しておらず、勉強に自信が無い生徒が多く、生徒は新聞を読む習慣が身につけていない状況である。そのため、新聞を読んで意見をまとめるのは生徒にとって大きなハードルになる。

『総合的な探究の時間』で取り組みをする準備として、『教養基礎』という学校設定科目(朝10

分×5日)で1単位の必修科目(で新聞記事をもとめたコラムを読み、問いに答えるというプリント学習を行っている。工夫として、コラム作成者を7名にして多様な目線での記事選定をしている。単にコラムを読むだけでなく10点満点の問題に取り組みさせた。そして、点数を『教養基礎』の成績に入れるようにし、生徒にやる気と達成感を持たせた。令和4年度からはプリント学習を新学習指導要領の観点別評価に合わせるために、「知識・技能」に関わる漢字の読み書きや記事の内容の読み取りの設問、そして、「思考・判断・表現」に関

わる記事を熟読し自分の意見を文章表現する設問をそれぞれ毎回入れるようにした。ただし、生徒からは難しいと敬遠されないように、親しみやすく興味を持ちやすいニュースを中心に図や写真を入れ記事の内容をわかりやすい言葉にかみ砕いてまとめ直すことで実施した。

これによって、生徒は『総合的な探究の時間』での取り組みの中で新聞記事を読むことに抵抗がなくなっていた。「いっしょに読もう！新聞コンクール」は日本新聞協会主催のコンクールで、記事を一つ選び感想を記入した後、家族や友人と記事を共有し話し合い、再度記事に関する意見や提言をまとめるというものである。目標を「新しい価値観」の記事との出会いに設定した。まず、記事の選定については、生徒が興味のあるものを主体的に選ぶことが理想だが、ある程度教員側で生徒が関心を持ちそうな記事を用意した。それは、生徒が意見を出しやすいものや賛成・反対という簡単な基準で考えることができるためである。次に、分野別に複数の記事を入れたファイルから記事を各自選んで、考えをワークシートに記入した。最後に、自分の選んだ記事に対しての意見をクラスメートに書いてもらい、それを参考にして提案・提言をまとめた。結果、自分の選んだ記事に意見や感想をもらうことにうれしさを感じ、また、他者から提供された情報を知るといふことの重要性に気づいた生徒も多かった。



今の生徒はネットニュースを通して情報を得る事が多いため、関心のない記事に触れることが少ない。変化していく時代の中で、考える力をつけるためには、幅広く情報を得ることが大切である。それを『教養基礎』と『総合的な探究の時間』での新聞記事を読んでまとめる作業により、自ら考えることの大切さを意識し主体的に物事に取り組みめるようになった。今回いただいた「学校奨励賞」は生徒および教員に良い励みになるだろう。今後も、「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募は続けていきたい。

県内の各学校で作られたかべ新聞、学校新聞や調査研究ポスターなどを公開しています。

## わかやま デジタルかべ新聞パーク

©和歌山県NIE推進協議会



# 「いっしょに読もう！新聞コンクール」の審査結果について

**全国奨励賞** 岡 結菜さん(和歌山市立高松小学校5年)

三原 菜結さん(和歌山県立日高高等学校附属中学校3年)  
※三原さんは、2年連続で同賞を受賞されました

**学校奨励賞** 和歌山市立高松小学校

和歌山県立日高高等学校附属中学校

すさみ町立周参見中学校

和歌山県立和歌山東高等学校

このたび日本新聞協会から、第14回「いっしょに読もう！新聞コンクール」全国審査会の結果が公表されました。全国から59,248編の応募があり、小・中・高校部門の最優秀賞を各1編(合計3編)、優秀賞を校種別に各10編(合計30編)、奨励賞を120編選んだと発表がありました。また、団体応募校の中から、優秀学校賞を小・中・高校各校の合計15校、学校奨励賞177校が選定されています。

また、第15回「いっしょに読もう！新聞コンクール」は2023年9月8日から2024年9月8日までの新聞記事を対象にして実施され、作品の提出締切りは、2024年9月9日(月)です。多くの学校、多くの児童・生徒の皆さんの参加をお待ちしています。

このたび日本新聞協会から、第14回「いっしょに読もう！新聞コンクール」全国審査会の結果が公表されました。全国審査会で授賞された個人および団体、県審査会で授賞された個人の皆様、誠におめでとうございました。

ルへの応募用紙や応募書類をお送りします。事務局メールアドレス(nie@nie.jp)にて、希望する内容や質問などをお書きのうえメールをお送りください。

全国審査会で授賞された個人および団体、県審査会で授賞された個人の皆様、誠におめでとうございました。

日本新聞協会 NIE ホームページ (<https://nie.jp>)に、募集要項の詳細が掲載されていますので、こちらをご覧ください。

和歌山県内では、小学校228編、中学校171編、高等学校157編で合計556編の応募がありました。そのうち県審査会において、優秀賞に27名、奨励賞に33名を選定しました。

は県内の多くの応募校が、学級や学年単位で参加して下さっています。授業での作文指導の実際や新聞記事を選ばせる方法など興味のある教員の方々には、参考資料や冊子、当コンクールの応募用紙や応募書類をお送りします。



岡 結菜さん



三原 菜結さん

※写真掲載は保護者の了解を得ています

## 第15回 いっしょに読もう！新聞コンクール

日本新聞協会は、今年も「いっしょに読もう！新聞コンクール」を実施します。家族や友人といっしょに記事を読み、感想・意見などを書いて、記事とともに応募いただく新聞感想文コンクールです。

1 新聞を読もう 	2 記事を決めよう 	3 記事を読んで考えたことを書こう 	4 家族や友だちに意見を聞こう 	5 まとめよう 	6 応募しよう 
--------------	---------------	-----------------------	---------------------	-------------	-------------

●対象：小・中・高校・高等専門学校生  
 ●応募締め切り：2024年9月9日(月)必着  
 ●募集要項：2023年9月8日～2024年9月8日の新聞協会加盟社等が発行する新聞から興味を持った記事を切り抜き、家族や友だちにも見せて意見を聞いたり話し合ったりしたうえで、応募用紙に記入して記事といっしょに送ってください。  
 主催：一般社団法人日本新聞協会      コンクールの詳細(応募・問い合わせ先、対象紙一覧など)▶NIEウェブサイト <https://nie.jp>